

東京島しょ郷友連合会だより

17号

【発行】東京島嶼郷友連合会
 【発行・編集責任者】大澤博紹
 【制作・印刷】オフィスYK



《ごあいさつ》

島嶼郷友連合会会長

大澤博紹



新年あけましておめでとうございます。新しい年がみな様にとって希望に満ちた良い年となりますようお祈り致します。

島嶼郷友連合会は昭和四十年の創設以来、本年で五十七年目を迎えます。平素より当会の活動に格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

この二年、コロナ禍に苦しんできた私たちですが、ウィズコロナの時代をどう生きていくのか、一人一人が考えていかなければなりません。感染状況は大幅に減少してきましたが、まだまだ予断を許しません。

連合会では四月に予定していた定期総会は、昨年引き続き書面での議案書評決にて承認を受け、役員体制も継続

することとなりました。

対面での理事会は、現在も三密回避を図るため開催を自粛しています。

今しばらくは、電話、郵便、メール等で連絡を取り合うことになりそうです。総会開催もコロナの状況次第となります。

連合会が企画した島巡り旅行は、平成十五年に利島から始まり、神津島、新島式根島、八丈島、大島、三宅島、御蔵島を一巡しました。

町村役場、観光協会等との意見交換をはじめ、島々の新たな取り組みや、かけがえのない歴史や文化に触れることができ、有意義な旅行となりました。また西伊豆、房総、信州上諏訪等の温泉旅行等も行いつつ、島巡り旅行は二巡目に入り、大島・神津島・八丈島まで実施されましたが、コロナ禍で現在中断しています。小笠原旅行についても状況が落ち着き次第企画する予定です。

故郷をよくしたいという気持ちは年を経るごとに強くなります。結びにみな様のご健康とご多幸を祈念してご挨拶とします。

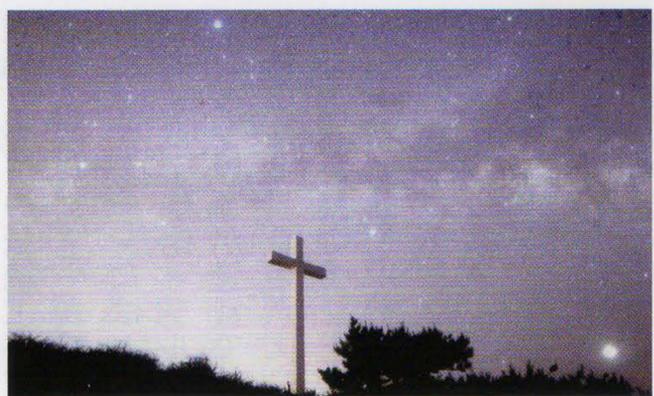
きらめく星降る神津島
 ☆星空保護区に認定

神津島郷友会 清水 邦洋

都心から南へ百八十キロ、伊豆諸島の有人島としては最も西にあります。島の形はひょうたん型をしています。標高五七二メートルの天上山を中心とした北部と、秩父山のある南部とに大きく分けられます。

令和二年十二月、神津島の全域が東京都で初めて、美しい星空を讃える国際制度「星空保護区」に認定されました。夜間の光害から星空を守ろうと活動する「国際ダークス協会（米国アリゾナ州に本部）」が評価した。

神津島では星空を観光振興に活用しようと、保護区認定に向けて取り組みました。自宅カーテンや照明の適切な利用を求める条例を施行、電機メーカーの協力で都道・村道の街灯、防犯灯を光が上空に漏れないものに変更した。保護区は国内では西表島（いりおもてじま）石垣国立公園に次いで二か所目です。国際ダークス協会は「東京からジェット船で四時間、都



提供：古谷 亘

会から訪れた多くの人を感動させ、宇宙の神秘へといざなう」と評価しています。

前田弘村長のコメント

認定された意義を深く受け止め、星空ツアーなどで多くのお客様に訪れていただけるよう、受け入れ環境を整備してまいりますので「ダークスカイ・アイランド神津島」をよろしくお願ひします。

（役場ホームページより）
 神津島では星は島の宝、新型コロナウイルス収束後は観光資源として大いにアピールしていきたいと期待を込めています。

令和三年度

理事長 梅田 勉

東京島嶼郷友連合会活動報告

あけましておめでとう
ございます。

伊豆諸島小笠原諸島の
みな様におかれましては
希望に満ちた新年をお迎
えのこととお慶び申し上
げます。

■連合会の活動目標

大自然の恵みに感謝
し、長い歴史に培われた
東京諸島の悠久の歴史と
文化を学び、思いやりの
心を持ち東京諸島出身者
と島々をつなぐ友情の輪
を広げ、ふるさと振興の
架け橋を目指します。

東京諸島の人々は、ど
んな危機に際してもお互
いに助け合うモヤイの文
化（共助の心）を大切に
してきました。連合会では
半世紀以上に渡り、そ
うした伝統を伝え継承し
ていく活動を行っていま
す。

昭和六十一年大島三原
山噴火時の全島避難、平
成十二年三宅島雄山噴火
時の全島避難、平成二十
五年大島土石流災害、令
和元年大島新島台風災害
等で募金活動を行いました。
多くのみな様から募

金をお寄せいただき、町
村長に直接お見舞金を渡
して感謝のお言葉をいた
だいたことは連合会の大
きな活動実績となっております。

また、島々のふるさと
に根付いたかけがえのな
い歴史を掘り起こす活動
も行っています。御蔵島
の黒船バイキング号事
件、三宅島への太宰治来
島の話、利島の船頭彦四
郎の御蔵島支援の物語、
終戦直後の幻の伊豆大島
共和国の話、国策に翻弄
された硫黄島の百三十
年、神津島の流人塚と島
唄、ふるさとを紡ぐ三宅
島噴火の記憶と火伏の獅
子舞、黄八丈の伝統工芸
伊豆諸島への応援歌「憧
れの伊豆諸島」の復活等、
興味深い島々の歴史と文
化、芸能を学び伝える連
合会活動は、ふるさと振
興の架け橋に繋がるもの
と思います。

■令和三年活動報告

・書面総会の実施

四月に予定していた定
期総会は、新型コロナウイルス
イルス感染拡大防止のた

め、昨年に続いて今回も
書面総会となりました。

第一号議案「令和二年
度事業報告、令和二年度・
決算報告・監査報告、第
二号議案「令和三年度事
業計画・収支予算、第三
号議案「役員体制の継
続・会長・理事長・監事
はすべて継続すること
承認され、新年度の組織
体制も継続することとな
りました。

・ホームページの更新
「悠久の歴史と文化」
を広く知ってもらいた
め、見やすいホームペー
ジへの更新作業に着手し
ています。まもなく公開
できる予定です。

・連合会だより
新年号発行
「ふるさとに思いを寄
せる」ことをテーマに編
集し、かけがえのないふ
るさとへの熱い思いをた
くさん寄せていただき発
行しました。

・定期総会の開催
新型コロナウイルス感
染症の動向次第です。今
後も感染の危機を乗り越
え、みな様と笑顔でお会
いできる日を心待ちにし
ています。

“故郷に思いを寄せる” 八丈旅行記

八丈島郷友会理事長 菊池 順

今般、我が故郷『八丈
島』へ、一年八ヶ月振り
に郷友会の先輩である駒
木正雄氏と二人旅をし
た。十月二十四日から
二泊三日の旅である。

今回の旅行の目的は三
原小・中学校運動会の見
学と両親の墓参りである。
レンタカーを借り、初
日は三原小・中学校の運
動会を見学した。小学生
約五十名、中学生約三十
名の合同運動会で、各競
技ともよく練習を積んだ
のが窺え、元気があつて
大変良かった。父兄の方
は勿論、地域の方の応援
が素晴らしく、地域密着
の運動会になっていた。

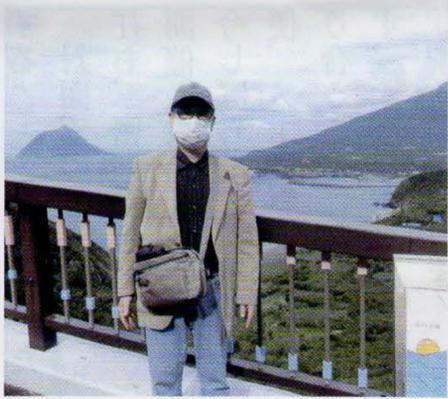
その後、中之郷地区に
ある両親の墓参り、続け
て末吉地区の駒木氏関連
のお墓をお参りした。

二日目は中之郷の「え
こ・あぐりまーと」（地
元野菜・果物等の直売）
や大賀郷地区にある宇喜
多秀家の旧住居跡と、お
墓や南原千豊岩海岸を散
策した。また、三根神湊
にあるくさや加工所で直
接くさやを購入した。

途中、榎立地区の服部
屋敷での榎立踊り・八丈
太鼓や中之郷地区の『黄
八丈めゆ工房』や大賀郷
大里の玉石垣で観光バス
四台を見かけた。名古屋
からの観光客のようで観
光立島の八丈島として嬉
しく思いました。

お昼は三根に住む知人
宅で御馳走に与りまし
た。むろ鱈やあしたば、
里いも、野菜サラダ等、
懐かしい島の味を美味し
くいただきました。

三日目は二便で帰るつ
もりでしたが、一便が欠
航となり、二便も欠航に
なるのではないかと心配
しました。八丈島飛行場
は南風が強いと欠航とな
るケースがあるが、当日
午後は北風で強風も収ま
ってきたので、無事出発



出来た。このように風次
第で発着が決まるのが八
丈島旅行の特徴である。
二便までの時間が四時
間あったので、ドライブ
がてら八丈植物公園や廃
墟ホテル巡りを行なつ
た。本当は末吉地区にあ
る『みはらしの湯』に行
きたかったが、休館日の
為に行けなかった。『みは
らしの湯』は八丈一、い
や東京一の露天風呂温泉
だと思えます。次回の帰
島の際は必ず訪ねたいと
思います。

故郷八丈島は、山あり
海あり自然豊かであり、
流人の島としての歴史や
伝統芸能（八丈太鼓や榎
立踊り等）や伝統工芸で
ある『黄八丈』や食文化
（くさや・あしたば・島
寿司・八丈焼酎・フルー
ツレモン等）が豊富で魅
力的である。この八丈島
の魅力が島外の方にもつ
ともつとアピールするべ
きだと思っております。

コロナ禍が収まってき
ているので、今後は頻繁
に帰島したいと思ってい
ます。また、条件が揃え
ば近い将来、生まれ故郷
の八丈島に転居すること
も考えています。

コロナ禍が収まってき
ているので、今後は頻繁
に帰島したいと思ってい
ます。また、条件が揃え
ば近い将来、生まれ故郷
の八丈島に転居すること
も考えています。



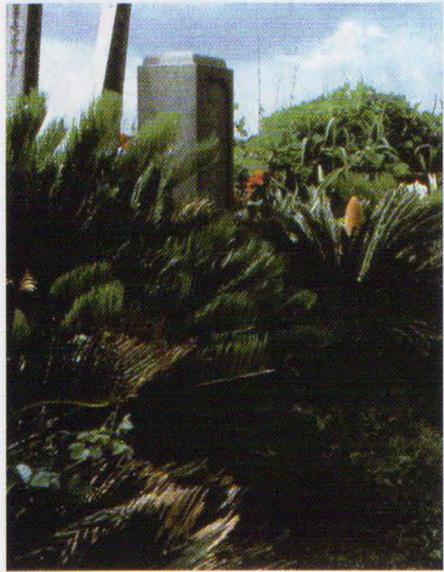
『絵島・生島事件』と 新五郎のお墓

三宅島郷友会 笹本 義男

『絵島・生島事件』は正徳4年（一七一四年）、徳川7代將軍家継の生母「月光院」が大奥で絶對的な権力者として君臨していた時代に起こった。月光院付きの御年寄り「絵島」が江戸山村座の人氣歌舞伎役者「生島新五郎」と情を交わしたとして幕府に断罪された。絵島は月光院の助命嘆願もあつて死刑は免れたものの、信州伊那・高遠藩に永久預けの幽閉処分となり、かたや生島新五郎は伊豆七島・三宅島に罪人として遠島・配流された。かの地で生涯を終えた。現在、新五郎は三宅島伊ヶ谷にあるお墓に眠っている。至つて表層的な筋立てだが、これが世間で言われるところの『絵島・生島事件』の概略だ。当時、絵島の権勢は大奥を傾けるほどであつたようだ。

●お墓の疑問

ここに記すのは、事件の一方の主演である



生島新五郎のお墓

「生島新五郎」についてである。私の故郷「三宅島伊ヶ谷」にこの「新五郎のお墓」が建っているのだ。ある歴史雑誌に某大学の教授が、三宅島のお墓に眠っているのは誰なのか？と疑問を呈していた。というのは「新五郎」は後に三宅島から八丈島に流されたと伝えられ、あるいは最終的に江戸帰りが許されて本土で没したなどの諸説あるという。これが事実ならお墓に疑問を抱くのは当然だ。だが事実「新五郎」はある時期まで伊ヶ谷地区で私の母の生家・笹本家のお墓に埋葬されていたのだ。生家では、永年そっくり言い伝えられており、同家の古びた過去帳にも

その記載があつた。私も十代のころ過去帳を見ていた。個人的には当然真実と確信している。

今、新五郎のお墓は、風雪に洗われた極素朴な笹本家のお墓から独立（分骨）し、伊ヶ谷の海辺に雰囲気あるものが建っている。折に触れ観光客が訪れ、島の観光振興に寄与しているようだ。昭和四十年代離島観光ブームが三宅島にも押し寄せた。その折村の行政当局が、三宅島の将来的発展のための活用素材として『絵島・生島事件』の「新五郎」に着目し、現在の場所に新しく建立したものだ。

ところで、まだ疑問に思うのは、幕府から罪人として流罪された「生島新五郎」が何故、島民のお墓に埋葬されていたのかである。笹本家には明確な資料やエビデンスはない。僅かな時代的記録を拾い読みしてみた。享保八年（一七二三年）、島役所（陣屋）が別の地区から伊ヶ谷に移つたと記録がある。陣屋は江戸幕府の支配下にあつて一般行政の他、流人について一定程

度の裁量権を有した。この伊ヶ谷陣屋と笹本家に何らかの接点があり流人「新五郎」と関係したのではと個人的に推測している。

努力は必ず報われる

八丈島郷友会 橋本 永子

まれに帰島し、お墓参りをすると「新五郎」の墓前にも手を合わせ、故郷三宅島がいつまでも元氣であることを願う。大見得を切つて願いを受け止めてくれるか、あるいは、怨念を胸に顔をしかめてみるか？新五郎にとっては何をやるのか、決断することではないでしょうか。

人生とは大きな夢と希望を持ち目標に向かって何をやるのか、決断することではないでしょうか。

人はそれぞれの人生を歩んでいます。ここで八丈島出身の橋本永子さんを紹介します。

高校を卒業し大きな夢を抱いて東京へ進出しました。服飾デザイナーを目指し、入学した学校は新宿にある、文化服装学院でした。



お嬢さん学校として有名な学校です。入学手続きの帰り校門の前で、目標のデザイナーに必ずなりますと誓いました。その日から予定表を定め、不言実行に邁進したので

生まれつきの手先の器用さと、正確さ、手際の良さ、研究熱心、制作意欲の旺盛さ、汗と涙で勝ち取つたデザイナー職でした。

ある日、デパートで開かれたデザイナー展で、自分の作品を熱心に見ているお客様に声をかけると、次から次へと話が進みすっかり意気投合して、高値の洋服を注文頂きました。千歳一遇のめぐり合い、これが橋本さんの人生の転機でした。

この日は嬉しくてうれしくて眠れなかつたそうです。この方とのお付き合いが深くなり、毎年、高値の洋服の制作注文を頂いているそうです。

横須賀に婦人服オーダーマイド『エイコサロ』を構え、この方との出会いのおかげでこのように元気でいられます、と心から感謝しているとのこと。

後輩の皆さんに伝えたいことは、努力は必ず報われるという事、と良き友は人生の一番の宝であるという事です。

大澤 博紹 記

あなたは『東京放置食堂』を観ましたか？

伊豆大島が舞台の人情味溢れるドラマ（深夜テレビ東京）

大島会 河野 秀夫

昨年九月一五日から十一月三日まで大島が舞台のドラマが放映されました。深夜の時間帯なので観た人は少なかつたかも知れませんが、コロナ禍で帰省できない私は大いにハマってしまい、TVで全8話を完全視聴しました。

中学時代の恩師加藤先生（島高の応援トランペッターとして有名）がFBで紹介したので何気なく見たら、「今はこんな場所が映えるんだ」と良い意味で固定概念をひっくり返してくれました。ざっとストーリーを紹介すると、人を裁くことに疲れた元裁判官（主演の片桐はいり）が、波浮港の居酒屋「風待屋」（小宮山商店の娘が経営という設定）を手伝いながら、東京の生活に疲れた観光客を、離島の自然とクサヤの匂いと味で癒していくというコミカルな人間模様ドラマです。

感動場面はいろいろありますが、何といつても

舞台設定に「波浮港」を選んでくれた心意気に感激しました。肴で提供されるクサヤをはじめ、明日葉炒め、トコブシの煮付け、セセリ汁などの島料理にはお袋の味付けまで思い出してしまいました。ただクサヤに対する客の反応はよくあるワンパターンの設定で、最初はクサヤをバカにしているのかと思いましたが、臭いに敏感な今の時代ではこれもやむを得ないかと諦めて観ていました。でも毎回違う役者さんが口に入れた途端、こんなにも美味しいのかと満面の笑みで食べてくれるので溜飲が下がりました。帰ったら食べたくなる鵜飼のコロッケや、小宮山商店が随所に出てくるのも心憎い演出です。イチ押しは、何と

いって、昭和世代の観光名所といえば、三原山、波浮港、

筆島、桜株でしょうか。平成世代は、噴火後の三原山、夕日が美しい浜の湯、動物と直に触れ合える大島公園、夏の海水浴、バームクーヘン模様の地層大切断面でしょうか。

今回のドラマでは、これらの伝統的な名所旧跡とともに、今まであまり知られていなかった絶景スポットにも脚光を浴びせてくれました。例えば、東京とは思えない異次元空間の裏砂漠、白波と黒砂のコントラストが際立つ砂の浜、独特な景色のトウシキ遊泳場、富士山が間近に見える赤禿とサンセット

パームライオン、神秘的な泉津の切通しなど、TVを観ていた人はきっとここに行ってみたいと思ったはずです。

令和の時代は、地元では何気ない風景も、若者世代

には魅力的な異体験ゾーンなのでしょう。このような場所も新たな観光スポットになって、さらに飲食店や宿泊施設との相乗効果で、コロナ前のように観光客で賑わう東京諸島であってほしいと切に思います。

新年にあたり、大田区の地から我が心の故郷『大島』に、感謝と希望を込めてエールを贈らせていただきます。



静かな佇まいの「波浮港」（左側が「風待屋」として使われた）



東京諸島で唯一のローカル紙

毎月8日・18日・28日発行

東京七島新聞

東京都島嶼町村会・東京都島嶼町村議会議長会指定広報紙

発行所 東京七島新聞社

〒105-0022

東京都港区海岸 1-4-15 島嶼会館 2F

TEL 03-6459-0292 FAX 03-6459-0094

E-mail sinp@gol.com

郵便振替口座 00160-9-99828

(購読料 1ヵ月 900円)

東京諸島向け広告&PR

Facebook 開設!



<https://www.facebook.com/tokyo7i>

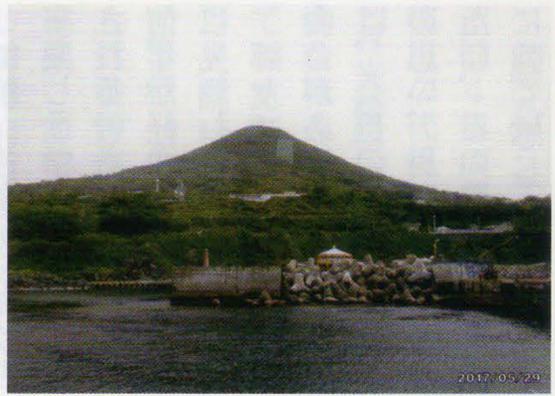
広告とPRは東京七島新聞をご利用ください。

購読と広告の申し込み先

本社	TEL 03(6459)0292
大島支局	TEL 04992(2)3540 (2)1102 (4)0064
新島通信部	TEL 04992(5)1323
式根島通信部	TEL 04992(7)0260
神津島通信員	TEL 04992(8)1047
三宅島支局 営業部	TEL 04994(2)0051
編集部	TEL 04994(2)0715
八丈島通信局	TEL 04996(7)0014

神が宿る海上のピラミッド 利島の魅力

利島会 梅田 勉



すが、近年では離島振興法の趣旨に沿った国や東京都の強力な施策により、一本の棧橋が完成し、5000トン級の定期船やヘリコプターの定期空路も開設し、島の生活環境は大きく改善され、日常生活に不便はありません。

みなさま明けておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大の波は急速に減少してきましたが、油断はできません。引き続き十分注意しつつ、この難局を乗り切っていきましよう。

今回は神が宿る利島の魅力をご案内します。

東京から南に百四十キロ、太平洋に浮かぶ三角形の利島は、神が宿る海上のピラミッドに例えられています。島の中央には標高五百八メートルの宮塚山が神々しくそびえ、裾野は海へと広がります。伊豆諸島の有人島では式根島の次に小さい島で

岸から運び出し、神社や集落の塀、道路の敷石などに使っています。苔むした神社の玉石は島の悠久の歴史を物語っています。

東側には山上様と呼ばれ親しまれている「二番神様」の大山小山（おおよまこやま）神社があります。

さらに、東部登山口付近には「三番神様」と呼ばれ親しまれている下上（おりのぼり）神社が鎮座する。

村の人たちは正月には一番神様から順に拝礼し、一年の無病息災を祈念して山を回るしきたりがあります。こうして神々が宿る利島は独自の信仰や文化を育んできました。

利島の歴史は古く、島嶼地域でも最大級の縄文時代の遺跡が多数あります。利島に最初に住みだしたのは約6千年以上前の東海系の土器を持つてきた人たちであることが明らかになっています。

利島を離れて六十年近くが過ぎました。6千年以上の島の歴史からすれば、まばたきする間ですが、記憶に残る故郷は、

どこの家も足らざるものを分け合いみんなが助け合う愛情のこもったモヤイの文化が息づいています。これからも故郷を懐かしみ、島の人たちを思う心を持ち続けたいと思います。

冬の利島は二十万本のヤブ椿の花で覆われ、「赤い島」と呼ばれ人気があります。島の八割を覆う日本一の椿の生産地です。椿油は香り豊で全国生産量の六割を占め、昔から日本中で利用されてきました。

はるか昔よりきびしい自然環境の中で先人が育んできた利島は、海よりも深く山よりも高い歴史とロマンに満ちた魅力いっぱい島です。都会の喧騒を離れ、是非一度訪れてみてはいかがでしょうか。



「黄金海流」のご案内

(上・下) 安部龍太郎著 幻冬舎文庫 大島郷友会会長 秋廣 道郎



令和3年8月5日、安部龍太郎氏は、黄金海流の復活改訂版を出版されました。1991年11月に刊行されたものを加筆修正され、更に充実されたものとなっております。

この黄金海流は、歴史小説の原点との評価がされております。私は、著者安部龍太郎氏から直々の献呈いただき、一気に読ませていただきました。

この小説は、波浮の港開港をめぐる幕府内の暗闘を描いた小説です。私の先祖秋廣平六が主人公として登場しますが、勘定奉行であった石川将監忠房候も登場され、それぞれの人物像も詳細に描かれ、面白く読めます。

又、鬼平と言われた長谷川平蔵と勘定奉行石川侯との深い友情も、フィクションとはいえ、真実味があります。

今回の黄金海流を読んでも、おぼろげだった「黄金海流」という意味が理解できました。蝦夷地の開拓と大島と三宅島の間にある大室出し漁業振興を結びつけることが、「黄金海流」であり、当時の石川将監忠房候や平六らの時代の流れを見据えた革新的な動きの中に、波浮の港開港の歴史的な意味が理解できました。又、幕府を巡る暗闘は、その背景に、重商主義と農本主義のイデオロギー対立があつたことが分かり、大変、歴史の勉強にもなります。

最期残った波浮の大岩を火薬で爆破する新解釈の場面がありますが、フィクションとは思いますが、1800年には、未だダイナマイトは発明されていませんでしたが、火薬は既に銃や大砲で使用されていたのですから、あり得ない話ではないなと思えました。是非、一読されることをお勧めします。

初夢：：を見たい

大島会 山口 勝子

通りすがりに「あした板を見かけると、たまたまなく懐かしく、思わず訪ねてみたくなる。若しかしたら故郷、大島の人が関連しているのではないかと。」

在京六〇年、板橋区に四〇年、豊島区に二〇年余、大島での生活はたった十八年。七十八年の小さな自分の歴史の中で、想い出を集約すれば占めるのは八割、島での十八年間。

想い出の多さは、過ぎ去った時の長さ、短さではないらしい。

毎年、各島から高校を卒業し進学や就職で上京される皆さんも、やがて何年か経つとこんな郷愁に見舞われるのでしょうか。

郷友連合会に携わり、

は約八十名、現在、残念なことには四分の一は鬼籍に入っている。

今、七島を合算しても一クラスの総数はこのくらいか？各学校とも塾位の人数編成、着任された教師に「よし、全員東大へ進学させよう」と、意欲のある人は居ないのだろうか？

自分がその立場であつたら、面白くて奮い立つのではないかと、残念に思うことがある。

島の財産の子ども達、未来を託し大事にしつかり育てて行って欲しい。

高校を出て進学に、就職に上京される皆さん、少ない人数である島、この島等と考えないで、七島全部が一つの島の気持ちになつて欲しい。

それには行政も、たまには、小学生の時から、中学、高校と修学旅行・運動会・音楽界・発表会、その他、一つでも一回でも全島合同で実施する行事の機会が作られたら、子ども達も

七島をひとつ、との考え方ができるのではないかと、個々の島単位ではなく、大きく捉えられるのではないかと、昔のようには子だくさんで教育にまで手が回らなかつた親の世代、今や、一人や二人の子ども親の世代、親も周りももつと子ども達のために、島の未来のために、視点をかえて、都会に負けない教育と何より、七島を一つとして考えられるような人間に育てて欲しい。

島の隔たりがなくなれば、上京してからも活発に交流し、島の為に：と

いう思いが共有され、郷友会も大いに活用されて共に発展して行けたら良いと：そんな未来を、初夢で見たいと願う。

この思いは在島の方々に決して負けないと信じます。

私の小、中学の同級生



私と新島の思い出

新島郷友会 大沼 傳次郎

私が新島にいた昭和三十年代は大型船が着岸する桟橋はなく、前浜の桟橋は木材でした。定期船は、すみれ丸か椿丸で、本船から「はしけ」に乗り換えるときは波の上下動を使って乗り換えていました。

地引網で魚がたくさん採れて楽しかった記憶も蘇ってきます。桟橋の一番奥まで行き、カニやフグをいっぱい釣りました。家に持ち帰ると母親はカニを味噌汁に、フグは天ぷらにして食べさせてくれました。その美味しかった味を忘れません。

山に行けばワラビや木の実、あすなる、やまもも、桑の実、あけび、うびなどがいっぱい採れて楽しい毎日でした。

羽伏浦の砂浜は真っ白で雪のようでした。周辺には潮風に耐えたいきれいな花がいっぱい咲き誇っていました。貧しい時代の大自然は私たちの遊び相手でした。その光景は現在も変わらず続いています。

さらに、新島では祖先を敬うことが生活の一部となつていました。い

私も昭和二十年生まれです。同級生は一組と二どでしたが、残念なことに天国に召されてゆく方も多くなつてきました。

私が就職するため、船で上京する折に一緒に乗り合わせたのが、当時の日本社会党委員長の浅沼稲次郎を刺殺した十七歳の山口二矢少年でした。山口少年はミサイル射爆場反対派のオランダの一人で、昭和十五年十月、日比谷公会堂で演説中の浅沼稲次郎を刺殺したのです。

浅沼稲次郎は三宅島の出身で、早稲田大学を卒業し日本社会党の書記長委員長を歴任しました。巨体と大きな声で全国を精力的に遊説する

姿から、「人間機関車」の異名を取り、「又マさん」の愛称で親しまれました。伊豆諸島の誇りの一人です。

わが故郷もことのほか朝日と夕日がきれいな素晴らしい島です。他の島にはない風光明媚な観光スポットもたくさんあります。是非一度訪れてみてください。

その昔、定期船で島に帰るときは一晩かかりましたが、今はジェット船で東京から三時間で行くことができ、調布から飛行機も就航していますので便利になりました。今も時々新島の名産「くさや」を取り寄せては島を懐かしんでいます。クサヤと抗火石は世界に誇れる新島の名産です。



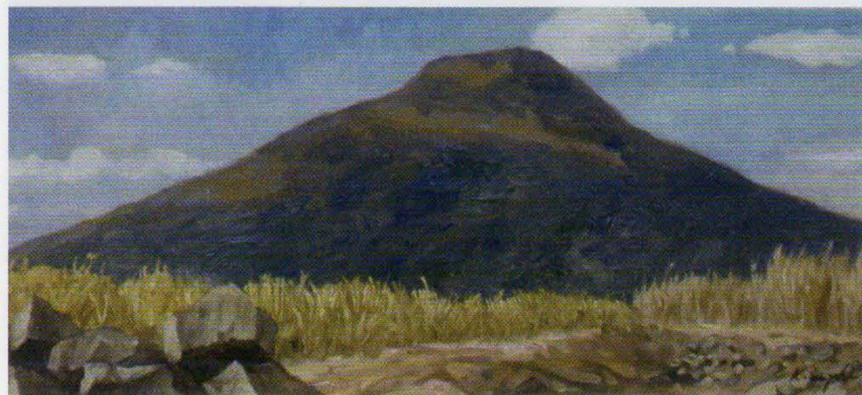
故郷の味が恋しい

八丈島郷友会
菊池 恭子

最近歳を重ねて思うことは、やはり生きて行く上で必要な食べ物の上でしようか。特に戦後は主食のお米が穫れなかった八丈島では、芋、さつまい類が代用食となった。然し現在ではこの里芋やさつまいが、健康食として見直され、人気の食物となつています。お正月に欠かせない煮物に登場する赤芋は、ねっとりとして本当に美味しい。忘れられない味です。でもこちらではなかなか手に入りません。

その他、流人が初めて食したと言われている明日葉も、栄養価高い貴重で自慢の食物の一つです。スーパー等でもお目にかかれません。なので友人と寒い奥多摩で栽培しています。私の好きな食べ方は、明日葉をザク切り、サツマイモを千切りにし混ぜ合わせ、かき揚げ天ぷらに。カラッと揚げたてご飯の相伴に、おつまみにお茶うけに、明日葉のほんのりした香り、苦みが食欲をそそります。一度お試しあれ。

島寿司は種が飛魚、にぎりの上に醤油に漬けカラスをのせたのが定番、八丈島に観光客として訪れた人たちにその味覚は大好評で、テレビ等でも紹介されています。私の手作りで奥多摩の仲間へ毎日食べても飽きないそうです。飛魚がないのでマグロを代用。黒潮暖流に囲まれた豊かな海の幸くさは絶品です。



八丈富士

も、戦争中奥多摩に疎開して来られた由。奥多摩物産祭りでは明日葉、くさや、島酒、島海苔等並び、味を覚えた奥多摩の人達と年に一度、どっさり買い込みます。姉弟島？として夏休みは子ども達が神津島を訪れ、海遊びを体験し合つて絆を深めています。伊豆諸島の食べ物自慢は同じですが微妙に味が違います。好みが違うと思いますが、コロナの影響で帰省も再会も儘ならないご時世です。



八丈小島

故郷の懐かしい美味しい味、まだまだ私の心の中に健在です。

伊豆七島 建設業協同組合

事務局

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-4-4 富士ビル 7階
TEL:03-3436-3636 FAX:03-3436-4730

編集後記

山口 勝子

新春を迎え皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

ご多忙の中、ご寄稿頂きありがとうございます。ありがとうございました。

『故郷に思いを』を、永遠のテーマに、連合会だよりを発行させて頂いておられます。

寄せられた文面にはどれも、島への熱い想いが溢れています。歴史にも漠然としていた知識が、形になって心に刻まれました。

コロナ禍で思うように活動できないジレンマ、然しコロナ禍は私達に、当たり前の事が、当たり前に出来ない、当たり前の生活の有難さを気付かせてくれたのではないかと。改めて日々感謝し、すべての物、人に感謝し、困難を乗り越えていきたい。次回もより良いページを、目指します。

編集委員

山口 勝子 (大島)

梅田 勉 (利島)

清水邦洋 (神津島)

高松宏惟 (三宅島)

沖山正俊 (八丈島)



明けまして
おめでとうございます。



大自然の東京諸島へ

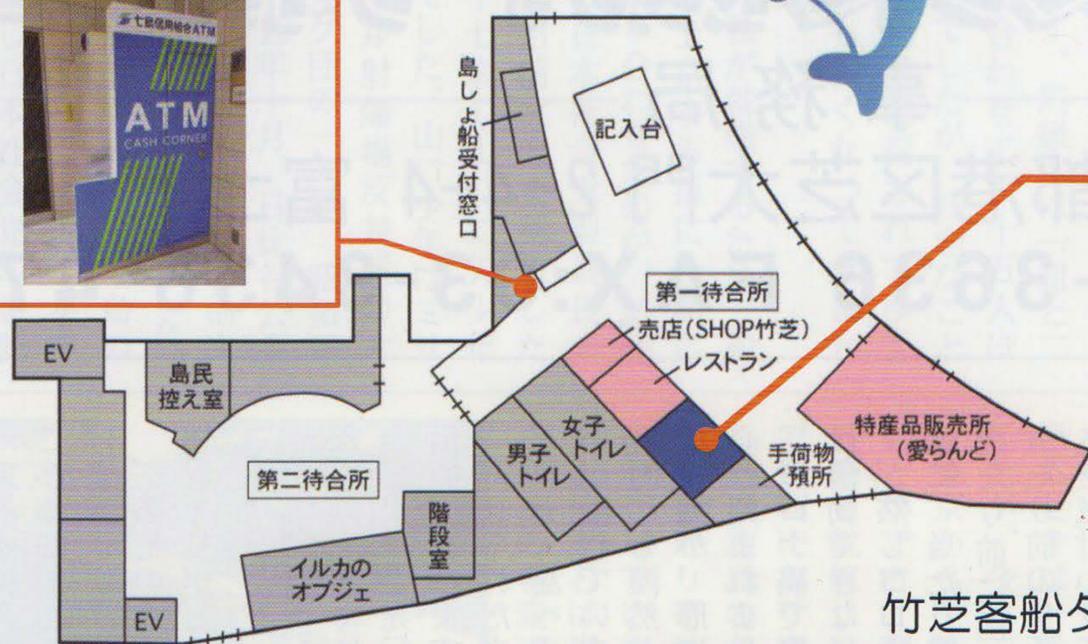
2021年 七島信用組合 東京支店が 竹芝ターミナル内に移転し、さらに便利になりました！

〈ATM 営業時間〉

7:00～ 23:00



ATMも
あります！



〈東京支店 営業時間〉

午前の部
9:00～11:30
午後の部
12:30～15:00
〈定休日〉
土・日・祝日



竹芝客船ターミナル待合所案内図 1 F



七島信用組合 東京支店 TEL 03-5843-3363

〒105-0022 東京都港区海岸1-12-2 竹芝客船ターミナル内